

平成 30 年度

「地域における青少年の国際交流推進事業」

「信州サマープログラム 2018」 成果報告書



長野県教育委員会

from Program Director

サマースクールは新たな旅のはじまり。
どこにいきたいのだろう、
なにをしたいのだろう、
そんなことを考えながら荷造りしよう。
これからの旅であなたに力をくれるもの、
あなたを導いてくれるもの、
そんな宝物でバッグがいっぱい
になりますように。

Pack your bag with lifelong discoveries.

この先、これからを。この夏、この町から。
小布施サマースクール 2018 へようこそ。
私たちのサマースクールのテーマは「旅の
はじまり」です。ここ小布施町は、日常か
ら少し離れこれからの「旅」について考え
るのにぴったりの場所です。普段とは違う
場所で、新たな人と出会い、みなさんはいつ
たい何を感じるのでしょうか。ぜひ一つ一
つの自分の感情を大切にしてください。
このサマースクールがみなさんにとって
かけがえのない7日間となることを願って
います。

小布施サマースクール 2018
プログラム・ディレクター

百瀬 あすみ
(一橋大学)

One of the core principles of HLAB
is diversity, and in a diverse world, it is
fundamental to KNOW what makes you special,
and also to SHOW what makes you special to
the rest of the world. Knowing about yourself
starts by enlarging your circle and meeting new
people. Listen to their stories: Where are they
from? What interests them? Where are they
heading? What kind of world do they envision?

Then, the next step will be to show what
kind of individual you are. Diversity is not just
about race, ethnicity, or culture; it is also about
different ways of looking at things, and different
ways of thinking about things. Diversity can be
found anywhere if you know well about yourself
and about others.

During this summer school, I sincerely
hope that each and all of you get to know a bit
more about yourself and about the world, and
learn to express yourself in many different ways.

HLAB's summer school proves that
people can change within 7 days, and I am very
honored to become a witness of such miracle.

HLAB OBUSE 2018
Program Director

Hinako Kijima /
University of Cambridge

目次

1	事業概要	1
2	成果について（概要）	1
3	具体的な事業内容	2
4	事業成果について	8
5	高校生の意欲向上に向けた取組	10
6	成果のまとめと今後の課題	10

資料

事前・事後アンケート結果

1 事業概要

(1) プログラム概要

コロンビア大学、ロンドン大学など、最先端の教育を提供する大学から、様々な国籍や背景を有する大学生・大学院生（以下、「海外大学生」という。）を長野県に招へいし、長野県小布施町を拠点として、全国から集まった50名の高校生を対象とした6泊7日の小布施プログラム（「小布施サマースクール2018」）を実施するとともに、小布施町及び信濃町の小・中学生と海外大学生が交流する機会を提供した（中学生プログラム）。

(2) 松本プログラムの中止

小布施町で実施されるサマープログラムのために、海外で学んでおり、一時帰国したバイリンガルの日本人大学生や、グローバルな視点を持つ日本人大学生を講師として、松本市を会場に1泊2日のプログラム（松本アカデミア）を計画した。しかし、台風12号の影響により、中止せざるを得なかった。

(3) 小布施プログラムの実施

サマープログラム期間中、高校生は海外大学生から、専攻する学問領域やその生き方について英語で学ぶ少人数講義（セミナー）や様々な分野の第一線で活躍する社会人からの講演会（フォーラム）、自分自身の将来像を描くワークショップ、ホームステイや地域の伝統文化体験など、グローバル、ローカル双方の視点や価値観を学ぶことができる多様なプログラムを体験した。

さらに、海外大学生と日本人大学生が、小・中学生とディスカッションやスポーツなどにより交流するプログラムを実施した。

2 成果について（概要）

これらのプログラムをとおして、短期間であっても参加高校生には意識の変容が見られ、その状況は、参与観察や事前・事後アンケートの実施により確認できた。アンケートの結果については後述する。

具体的には、プログラムの期間中、積極的に他の参加者やメンター役の大学生に話しかけたり、セミ

ナーやフォーラムの際に英語で質問したり意見を述べることに躊躇しない姿が見られるなど、主体的に行動しようとする自己意識の向上が見られた。また、共同生活をとおして、他者を思いやり、配慮する意識も高まった。

一方で、参加高校生がそれぞれに抱える課題が明らかになった。しかし、サマースクールの最後には、参加高校生全員が「これから取り組むこと」をスピーチするなど、意識の変容を具体的な行動につなげようとする意欲が見られた。

特に以下の3点を取り上げる。

- ① 自分自身のやりたいこと、あるべき姿を追求し、主体的な進路選択を行おうという意識が高まり、まずは目の前の課題について、解決に向けた具体的な目標を設定できるようになった。
- ② グローバルな視点を持ちながらも地域で活躍する人材や、日本の地域における価値観や課題を知り、愛着を持ちながらも、グローバルに活躍する人材を育成しようという目的は、参加高校生の意識の変容という点において達成された。
- ③ グローカルな視点をもった上で、社会や身の回りにある課題に対する具体的な行動を起こす人材を育成するという目的は、主体性や積極性の向上等の点において達成された。

また、本事業は、高校生をメインとしたプログラムだが、参加した海外大学生及び日本人大学生についても、運営を通じて、人材育成に繋がる意識の向上が見られた。



3 具体的な事業内容

(1) 計画・実施したプログラム

① 松本プログラム（「松本アカデミア」）

実施予定会場：松本市中央公民館（松本市）

宿泊予定施設：ホテルみやま荘（松本市）

7月28日（土）・29日（日）に、松本市中央公民館を会場に、「松本アカデミア」として、フィールドワークから課題を発見し、グループでのディスカッションを経てプレゼンテーションを行うプログラムを計画した。

しかし、台風12号の接近に伴い、交通機関等が運休することが予想され、プログラムの中心となるフィールドワークの実施への影響も考慮した結果、参加生徒の安全を考慮し、7月27日（金）の段階で中止を決定した。そのため、松本プログラムは実施することができなかった。

例年よりも参加希望者の申込状況が良く、このようなプログラムにニーズがあることは把握できていたので、中止は非常に残念であったが、本県が取り組む「探究的な学び」の実践に向けて、地域課題と関連付けながら、主体的に学ぶ機会を、高校生にとって学びやすい環境として用意していきたい。

② 小布施プログラム

（「小布施サマースクール2018」）

実施会場：小布施町役場を中心としたの小布施町内施設、その他

宿泊施設：同上

参加者数：高校生50人（長野県内26人）

国内大学生26人

海外大学生12人

主な内容：

- a 海外大学生によるセミナー
（英語による授業）
- b 社会人講師によるフォーラム
（講演会及び講師と高校生の交流会）
- c フリーインタラクション
（社会人講師との自由な対話の時間）
- d リフレクション
（1日の活動を振り返るグループ対話）

e その他、大学生が企画する体験的学習

(2) 小布施プログラムの実施内容

① 0日目（前日）8月13日（月）

東京で事前オリエンテーション合宿を行っていた大学生講師が午後小布施に到着し、翌日からのサマースクール実施に向けてのミーティングを実施した。

② 1日目 8月14日（火）

参加生徒は会場となる小布施町役場講堂に集合し、講師となる大学生に迎えられた後、隣接する北斎ホールでの開会式に参加した。市村良三小布施町長からご挨拶をいただき、主催者である長野県教育委員会を代表して、北澤 潔 教学指導課 高校教育指導係長が挨拶した。サマースクール期間中のホームステイ受入れ先のご家族にも来場していただき、参加生徒は、サマースクールが無事開催されたことへの感謝と意気込みを新たにしていた。



開会式後、小布施町講堂に戻り、期間中に生活を共にする「ハウス」メンバーの仲を深めるアイスブレイクを実施した。お互いの名前とニックネームを教え合い、相互理解を深めるためのゲーム等を実施することで、初対面の者同士が打ち解ける雰囲気をつくることができた。夕食は、「ウェルカムディナー」として、参加生徒と大学生だけでなく、市村町長をはじめとする小布施町関係者、サマースクール卒業生も参加し、盛大に行われた。

夜は、ハウスごとのリフレクションが実施された。リフレクションでは、その日に感じたことや自分が思っていることを振り返りながら話すことができる時間である。発言には安全が保

証され、参加生徒はどのようなことでも話すことができ、その場で大学生からの意見をもらうこともできる。この時間は、本サマースクールにおいて非常に重要な、根幹をなす時間でもある。参加生徒は、リフレクションは、4日目のホームステイ時を除き、期間中は毎晩行われる。



ウェルカムディナー (小布施町長と)



セミナーの様子

今年度のセミナーも分野は多種多様で、参加生徒は自分の希望するセミナーを選択して受講する。理系・文系に留まらないリベラルアーツの根幹となるプログラムである。セミナーは、3日目、4日目及び6日目の午前にも実施される。



初日のリフレクション

昼食後は、「サマースクール・ロードマップ」として、1週間あるサマースクールをどう使い、何を吸収していきたいのかをハウスごとに話し合いを行った。「あなたは自分の過去・現在・未来を一言で表すとしたら、どんな言葉を選びますか？」という問いを基盤に、これまでの自分の人生を振り返り、サマースクールをどう過ごしたいか、また将来どのような人になっていたかなどを言語化することで、自分の過去・現在・未来について考えを深めた。特に、自分の考えを言語化して伝え合うことで、似ている趣味や学問、興味を持っている人同士で集まるアクティビティーを通し、興味分野を新しい視点から考える「きっかけ」、そして新しい人と話す「きっかけ」を作ることにもできた。

③ 2日目 8月15日(水)

2日目午前からはセミナー（海外大学生による授業）がスタートした。今年度のセミナーは以下のとおり。

- 1 Animal welfare
- 2 A reader-writer's workshop
- 3 Can new technologies change our attitudes?
- 4 Confidence in Performance
- 5 Cyber security
- 6 Design thinking
- 7 Future of food
- 8 Global Feminism
- 9 Journey to a better, more creative self
- 10 Music
- 11 Nutrition and health
- 12 Social Media and Society



サマースクール・ロードマップ

午後には、スカベンジャーハントという企画を実施した。海外大学生が中心となって企画し、高校生と海外大学生がクイズを解きながら小布

施町の町を歩き、クイズが示す目的地をたどりながら町内のお店や施設を訪問することで、小布施町の名所や歴史について共に学んだ。小布施町の方々の優しさに触れつつ、また、普段とは異なるメンバーで協力し行動することで、ハウスを超えた関係を築く機会ともなった。



スカベンジャーハントで町歩き

④ 3日目 8月16日(木)

サマースクール3日目は、二人のゲストをお迎えしてフォーラムを開催した。篠田真貴子氏には、時代の変化に合わせて一步を踏み出す勇気について、ご自身の経験をもとにお話しいただいた。また柴沼俊一氏には、限界費用ゼロ社会・共感資本主義への過渡期に、自分の力で未来を切り拓くことの重要性をお話しいただいた。



篠田 真貴子氏

柴沼 俊一氏

フォーラムに続いて、ゲストの方々と高校生、大学生が膝を交え、仕事観から人生観まで双方向の対話を行うフリーインタラク션을実施した。フォーラムの講師にもお越しいただいたこの企画では、自由な交流を図る中で、高校生は積極的に質問し、熱心にご講演者の方々のお話に聞き入っていた。社会の最前線でご活躍されている方々との交流を通して人生における多様な選択肢を知ることができ、高校生にとって

新たな視点や価値観を得られる機会となった。



フリーインタラクシヨンゲストのみなさんと

フォーラム講師

篠田 真貴子

株式会社東京糸井重里事務所

取締役 CFO (当時)

柴沼 俊一

株式会社シグマクシス 上級執行役員

フリーインタラクシヨンゲスト

篠田 真貴子

柴沼 俊一

小林 亮介 一般社団法人 HLAB 代表理事

高田 修太 一般社団法人 HLAB 共同創業者

夜のスペシャルリフレクションは、「まちとしょテラソ」という小布施町立図書館で実施した。幻想的なライトの下で、刺激的な一日と3日間のサマースクールを振り返り、海外大学生と高校生がじっくりと語り合う機会とすることができた。



スペシャルリフレクション@まちとしょテラソ

⑤ 4日目 8月17日(金)

4日目に入ると高校生もサマースクールでの生活に慣れ、午前中のセミナーでも楽しんでディスカッションに参加する様子が見られるようになった。午後には、「日本のGDPを1.2倍にするには」というテーマについて、グループごとにアイデアを出し合い、ポスターセッションを行うアイデアソンを実施した。限られた資料の中から目標を達成するためのアイデアをグループごとに出し合い、最後は発表会を行った。

ディスカッションや企画立案の方法を大学生達から教わることで、今後の礎となるスキルを学ぶことができた。中には、思うように企画立案を行うことができず、歯がゆい思いをした高校生もいたが、そのような経験も自分を高める機会とすることに期待したい。



4日目から5日目にかけては、小布施の暮らしを体験できるホームステイを行った。小布施町内のご家庭に高校生と大学生・海外大学生が一晩ホームステイをさせていただいた。暖かい歓迎を受けるとともに、自分とは全く違う世代の方々と交流できる貴重な機会となった。

⑥ 5日目 8月18日(土)



ホームステイから会場に戻った5日目には、「タレントショー」を開催した。17組のグループが、歌やダンス、楽器演奏など様々なパフォーマンスを披露し、お互いの新たな一面を見せ合うことができた。最後は全員で小布施サマースクール2018のテーマソングを合唱した。



午後には、自分史ワークショップを実施した。小布施若者会議教育分科会の方々のファシリテーションで、過去に起こった印象的な出来事を振り返るワークシートに取り組んだほか、自分史グラフを作成し、自分の辿ってきた軌跡を見つめ直した。高校生たちは自分史を書くことを通じて、今までどのようなことを経験してきた、そこで何を感じたのかを振り返り、書き出してみるにより、各々の辿ってきた軌跡を一度立ち止まって考えるきっかけとすることができた。

自分史ワークショップ及び
フリーインタラクティブゲスト

大野 友 小布施若者会議教育分科会

大宮 透 共創ファシリテーター / 小布施町
特別職主任研究員 / 一般社団法人小布施ま

ちイノベーション HUB 事務局長
 塩澤 耕平 小布施ハウスホクサイ 管理人
 清水 律男 リトルパンプキン (菓子店)
 店主
 谷口 優太 一般社団法人小布施まちイノ
 ベーション HUB
 小布施 DMO 準備室 (当時)
 鶴原 幹 EY-Parthenon コンサルタント
 山田 夏子 小布施若者会議教育分科会
 山本 紗哉加 小布施若者会議教育分科会
 若林 光 小布施若者会議 教育分科会

布施町を散策した後、おぶせミュージアム中島千波館の庭を会場にお祭りを実施した。地域の方々の協力による、屋台で小布施町の食材を味わいながら、思い思いに小布施での最後の夜を楽しんだ。ホームステイ先のご家族や小布施町の住民の方々にもお越しいたごき、期間中最後となる交流の機会を持った。



自分史ワークショップ



セミナーのまとめ



フリーインタラクション



お祭りでの地域交流

最後となるリフレクションは、宿舎に戻ってからハウスごとに行い、サマースクールを通して学んだことや今の思いを遅くまで語り合った。高校生たちにとって、忘れられない一日となったことだろう。

⑦ 6日目 8月19日(日)

6日目の午前は、各セミナーの最終回としてまとめの授業が行われた。プレゼンテーションをするセミナーもあり、サマースクール期間中に学びを一層深めることができた。昼食はハウスごとに街中でとり、各々が小布施の味を楽しんだ。

午後は、小布施サマースクール最後のイベントであり、小布施町の方々と交流する機会でもある、お祭りに向けた準備を行った。高校生も海外大学生も浴衣に身を包み、暮れかかった小

⑧ 7日目 8月20日(月)

最終日は、小布施町の町長、教育長ご臨席の下に閉会式を行った。町長、教育長からのご挨拶、代表の高校生、海外大学生、プログラムディレクターからスピーチの後、サマースクールの様子をまとめたエンディングムービーを見て、自分は何を感じ、何を得たのか、この一週間を振り返った。閉会式の最後には、各ハウスのリーダーから参加高校生一人ひとりに修了証が贈られた。

閉会式後には、ハウスごとに分かれ、思い思いの場所で最後の昼食を摂った。フェアウェルランチ・ファイナルハウスタイムということで、サマースクールを振り返る最後のリフレクションを行った。



ハウスごとに修了証を授与される



フェアウェルランチ&ファイナルハウスタイム

小布施を離れる前に全員が北斎ホールに集合し、2日目に行ったサマースクール・ロードマップの振り返りとして、サマースクール後の自分に目を向けられるようになるために、全員で「サマースクール後にやること」を書き、全員で大きな輪をつくって発表を行った。単純に「参加して良かった」という感想で終わらせるのではなく、サマースクールからこれからが始まることを意識するための企画で、全員がこれからの目標を発表し、励まし合った。



目標をもつて、それぞれの場所へ

生を送り出し、すがすがしくサマースクールの最後を締めくくった。

⑨ 8日目 8月21日(火)

高校生のサマースクールが終了した翌日、小布施中学校に通う1年生(希望者)対象に、中学生向けプログラムを実施した。中学生と海外大学生、日本人大学生とがグループになって町歩きをし、自分たちが行った場所について絵を描き、それを使って英語でスピーチするプログラムを行った。参加人数は少なかったが、中学生一人あたりに対する大学生の関わり方が充実していたことから、非常に良いプログラムとなり、中学生の活動も大変充実したものとなった。



英語でプレゼンテーション

⑩ 9日目 8月22日(水)

最終日には、海外大学生12名と日本人大学生19名が、小布施まちイノベーションHUB事務局長である大宮透氏をコーディネーターとして信濃町立信濃小中学校に赴き、8年生(中学2年生)を対象に交流会とグループワークを行った。今自分が考えていることや将来の夢、大学生たちが中学生の頃はどうかだったのか、といったことについてグループごとに語り合った。

その後、5年生から9年生の教室に大学生が別れて、一緒に給食を食べる交流会を行った。初めはお互いにどうしたら良いかわからず、大学生も子どもたちもモジモジした感じだったが、時間が経つにつれ打ち解けて、言葉でのコミュニケーションだけでなく、ジェスチャーなどで積極的にコミュニケーションをとる姿が見られた。



信濃小中学校での交流会



給食を一緒に

4 事業成果について

事業成果については、要項に定められたアンケート項目の他に、独自に参加者へのサマースクール参加前後に実施したアンケートにより計測した。

以下は、アンケート結果に基づく成果に関する概要である。

(1) 語学力について

- ① 「英語で自己紹介ができる」「英語で外国人に話しかけることができる」の問いに「とても思う」との積極的な回答が、それぞれ34%→52%、28%→50%と大幅に増加した。肯定的(「少し思う」も含める)な回答を含めると、それぞれ90%、86%となり、7日間の生活により、英語の使用及び外国人との対応に対して抵抗感がなくなったといえる。
- ② 将来、外国の大学に進学、外国企業に就職したいかとの問いに対しては、積極的な回答が、それぞれ44%→50%、32%→30%となり、大学進学は微増だが、就職は逆に減少している。肯定的な回答まで含めると、それぞれ76%、72%となるが、興味はあっても実際に行動するところまではいかないという心理状態が見て取れる。

(3) 事後研修の実施

① 長野会場

日時 12月15日(土) 13:00-16:00

会場：長野市生涯学習センター(長野市)

内容：

- ・サマースクールの実施概要について、大学生講師代表による説明
- ・参加高校生による発表
- ・講師大学生による発表
- ・グループに分かれてのリフレクション

② 小布施会場

日時：12月15日(土) 18:00-21:00

会場：小布施町役場講堂(小布施町)

内容：

- ・小布施町長あいさつ
- ・サマースクールの実施概要について、大学生講師代表による説明
- ・参加高校生による発表
- ・講師大学生による発表
- ・小布施町関係者との会食

(2) コミュニケーション能力について

- ① コミュニケーション能力については、肯定的回答まで含めると事前の段階から8割以上という状況であったことから、サマースクール後も大きな変化は見られなかった。しかし、「人の心の痛みがわかる」の項目においては、積極的回答が36%→48%となっており、集団生活の中で、他者に対する意識が変容していることがわかる。

(3) 主体性・積極性について

- ① 主体性・積極性に係る項目については、参加前の段階の数値が低く、積極的回答は30%に満たず、「先を見通して、自分で計画が立てられる」は16%であった。
- ② サマースクール後はすべての項目で積極的

回答が10%以上増加していることから、同じ高校生参加者を含め他者からの良い影響を受け、意欲的に行動しようとする意識は高まっていると言える。

(4) チャレンジ精神について

- ① 積極的回答の割合には差があるものの、「小さな失敗をおそれない」が14%→24%、「うまくいくようにいろいろな工夫をすることができる」は26%→40%、「新しいことに挑戦したい」は68%→78%と向上した。
- ② 特に「新しいことに挑戦したい」の項目は、事前から高い割合であったものの、積極的回答が8割近くになっており、サマースクールを通じて、意欲的に取り組もうとする意識が高まったと言える。

(5) 協調性・柔軟性について

- ① 協調性・柔軟性については、あまり大きな変化が見られなかった。
- ② 特に「だれとでも仲よくできる」の項目では、肯定的回答まで含めると、88%→86%と減少している。
- ③ サマースクールという短い期間の中では、本当の意味で他者と打ち解けることが困難であることは想像に難くないが、多様性を受け入れ、自分とは異なる価値観を持つ人たちとの関係づくりにはまだ課題があるようだ。

(6) 責任感・使命感について

- ① 「自分に割り当てられた仕事は、しっかりとやる」の項目では、積極的回答が76%→58%と大幅に減少してしまった。肯定的回答まで入れると双方とも100%となるが、期間中に自分の行いについての反省が表れているものと思われる。
- ② 他者との関わりの中で、自分の役割を意識し、それを自ら進んで行うことは、一般社会においても困難なものではある。慎重さがうかがえる結果であったが、サマースクール期間中にどれだけ意識を高められるかは今後の課題である。

(7) 異文化理解について

- ① すべての項目で大きな変化はなかった。
- ② 実際に海外大学生と交流してみると、意外なほど自分が当該国やその国の文化、人々の生活について知らないことを思い知らされたのではないかと。
- ③ 英語でのコミュニケーション能力とも関連づけ、期間中に海外大学生との相互理解が深まるような取組も必要であろう。

(8) 日本人としてのアイデンティティについて

- ① アイデンティティに係る項目では、大きな変動は見られなかったものの、「日本の歴史を説明することができる」、「日本人の良さを説明できる」について、それぞれ肯定的回答を含めると、50%→60%、76%→84%となっている。
- ② わかっているつもりでも、いざ説明しようとするとならぬことに気づかされ、そこから知ろうとする意欲が高まっていることは見て取れる。
- ③ この質問項目については、外国籍の参加高校生はどのように回答すれば良いのかわからなかったのではないかとと思われるところがある。今回の参加高校生の中には外国籍の者もいたため、アンケート時に配慮が必要だったかもしれない。後述の「外向き志向」とも係るが、見直しが必要な部分があると思われる。

(9) 外向き志向について

- ① 「外国の人との交流を通して自分の可能性を広げたい」は78%→82%、「交流した外国の人と将来も繋がりをもちたい」は78%→90%となっており、サマースクールを通じての交流が、将来にわたって良い影響をもたらすであろうことが予想できる回答となった。
- ② 一方で、「日本人として世界に貢献したい」については、低くはないものの94%→94%と変化がなく、積極的回答だけで見ると62%→68%であり、否定的回答についても変化がなかった。ここには外国籍の参加高校生の存在が影響していると思われることから、質問

の文言について見直しが必要であると思われる。

5 高校生の意欲向上に向けた取組

(1) 高校生の学問への関心や意欲の促進

- ① 大学生講師が実際に自分の大学で学んでいることを高校生に紹介し、進路や学習計画のデザインのサポートをする。
- ② 海外の大学の授業を疑似体験する機会（セミナー）を設けたこと。
- ③ 理系文系を問わず様々な分野で学んでいる大学生をリクルートし、高校生の身近なロールモデルとしての役割を果たすよう研修した。

(2) 英語に対する不安や懸念の払拭

- ① アイスブレイクの企画を海外大学生中心に行い、異なる背景を持った者とのコミュニケーションの不安を払拭するようにした。
- ② 英語を用いたアウトプット企画を用意し、ツールとして英語を用いるという感覚を掴んでもらった。

(3) キャリアや自己に対する理解の促進

- ① 毎日のリフレクションを通し、高校生が自己を内省する機会を設け、自己表現に欠かさない自己理解につなげることができた。
- ② 様々な分野で活躍される社会人の講演（フォーラム）を企画し、多様なキャリアに触れられる場が提供できた。

(4) 主体性の促進

- ① サマースクール中に行われる企画は、全て参加者が主体的に取り組める双方向なものとした。セミナーでは海外大学生と授業内容に関してディスカッションできるように心がけ、リフレクションも高校生が自己開示しやすいような環境づくりを大学生スタッフが心がけた。

(5) 海外留学のハードルを下げる

- ① セミナーを実施し、海外の大学を身近に感じられる機会を提供した。
- ② 海外大学生のみならず、留学経験のある国内大学生が、身近な前例として自らの留学体験などを紹介した。

6 成果のまとめと今後の課題

(1) 成果（参与観察及び事前・事後アンケートの結果から）

- ① 異なる人種、国籍、居住地、学校など、それぞれに異なる背景を持つ参加高校生、海外大学生や日本人大学生及び社会人講師と関わりを持つ中で、多様な価値観を肌で感じ、体験する学びが実現できた。
- ② 大学生や講師から経験に基づく進路選択の話聞くことにより、自分自身のやりたいこと、主体的な進路選択を行おうとする意識が高まり、目の前の目標設定ができるようになった。また、海外の大学への進学意識も高まった。
- ③ サマースクール期間中のリフレクションの時間でお互いの気持ちや進路についての考え等を話し合い、伝え合うことにより、参加者の相互理解が深まり、他者を思いやり、配慮する意識が高まった。
- ④ プログラム期間中に、積極的に他の参加者やメンター役の海外大学生及び国内大学生に話しかける姿やセミナーやフォーラムの際に英語で質問し、意見を述べることに躊躇しない姿が見られるなど、英語でのコミュニケーションに対する意識の向上が見られた。
- ⑤ グローバルな視点を持ちながらも地域で活躍する人材や、日本の地域における価値観や課題を知り、愛着を持ちながらも、グローバルに活躍する人材を育成しようという目的は、参加高校生の意識の変容という点において達成された。
- ⑥ また、本事業は、高校生をメインとしたプログラムだが、参加した海外大学生及び日本人大学生についても、運営を通じて人間的に成長した姿が見られ、指導者としての自覚に

基づくロール・モデルとしての役割を果たそうとする意識の向上が見られた。

(2) 課題及び改善に向けた方策

- ① 海外大学生の食事について、近年ベジタリアンやビーガンの比率が高くなっており、彼らに対する食事提供のあり方が、大きな課題となっている。バラバラのメニューを用意することは、食事のコストを考えると難しい面がある。しかし、ベジタリアンやビーガン以外の海外大学生からも、できるだけフレッシュな野菜を摂りたいという希望もあることから、地元の食材を活用した対応食の提供について、小布施町側と検討を進めて行く必要がある。特に、ハラール対応が必要な場合も含めた検討が必要だと認識している。
- ② 宿泊施設について、年々改善をはかっていることから、今年度は特に不満の声は聞かれなかった。しかし、文化の違いに対応した宿泊のあり方は、今後も参加者の意見を聴取しつつ改善を続ける必要がある。
- ③ 参加者の金銭的負担については、今後検討すべき点もあるが、概ね問題はないと理解している。国内の大学生のサポートが回数を重ねてきたことでしっかりとマニュアル化されてきており、運営は円滑に行われ、参加高校生も大変満足してプログラムを終えている。
- ④ 危機管理対応についても今年度は地域の医療機関と連携したマニュアルを作成し、対応環境を整えることができている。安全・安心の面でも、充実の度合いは高くなっている。
- ⑤ 大学生が企画した体験的な活動（例 アイデアソン等）の中には、現在は対象としていないが、講師料の対象と判断できる内容のものもある。企画内容により対応が変わってしまうことから現在は対応していないが、プログラム内容を精査する中で検討していきたい。

主催 長野県教育委員会

運営 小布施サマースクール実行委員会

長野県教育委員会

小布施町 小布施町教育委員会

一般社団法人 HLAB

一般社団法人 小布施まちイノベーションセンター HUB

参加者の意識に関するアンケート

以下の項目について、「とても思う」、「少し思う」、「あまり思わない」、「全く思わない」の4段階で、参加者へ事前・事後のアンケートを行うこと。
また、事後アンケートについては、事業終了から一定期間経過後にも改めてアンケートをする等成果の把握に努めること。

要素Ⅰ-①語学力、要素Ⅰ-②コミュニケーション能力

要素Ⅱ-①主体性・積極性、要素Ⅱ-②チャレンジ精神、要素Ⅱ-③協調性・柔軟性、要素Ⅱ-④責任感・使命感

要素Ⅲ-①異文化理解、要素Ⅲ-②日本人としてのアイデンティティ

要素	質問番号	質問項目	回答	事前	事後	変化
要素Ⅰ	1	英語で自己紹介ができる	とても思う	34%	52%	↑
			少し思う	52%	38%	↓
			あまり思わない	12%	10%	↓
			まったく思わない	2%	0%	↓
	2	外国の人に英語で話しかけることができる	とても思う	28%	50%	↑
			少し思う	48%	36%	↓
			あまり思わない	18%	12%	↓
			まったく思わない	6%	2%	↓
	3	将来外国の学校に行きたい	とても思う	44%	50%	↑
			少し思う	26%	26%	→
			あまり思わない	20%	16%	↓
			まったく思わない	10%	8%	↓
	4	将来外国の会社ではたらかしたい	とても思う	32%	30%	↓
			少し思う	34%	42%	↑
			あまり思わない	26%	22%	↓
			まったく思わない	8%	6%	↓
要素Ⅰ	5	だれにでも話しかけることができる	とても思う	28%	32%	↑
			少し思う	40%	40%	→
			あまり思わない	32%	28%	↓
			まったく思わない	0%	0%	→
	6	人の話しをきちんと聞くことができる	とても思う	50%	56%	↑
			少し思う	48%	34%	↓
			あまり思わない	2%	10%	↑
			まったく思わない	0%	0%	→
7	人のために何かをしてあげるのが好きだ	とても思う	66%	66%	→	
		少し思う	30%	32%	↑	
		あまり思わない	4%	2%	↓	
		まったく思わない	0%	0%	→	
8	人の心の痛みがわかる	とても思う	36%	48%	↑	
		少し思う	50%	36%	↓	
		あまり思わない	14%	16%	↑	
		まったく思わない	0%	0%	→	
要素Ⅱ	9	自分からすすんで何でもやる	とても思う	22%	34%	↑
			少し思う	60%	52%	↓
			あまり思わない	18%	14%	↓
			まったく思わない	0%	0%	→
	10	前向きに、物事を考えられる	とても思う	28%	44%	↑
			少し思う	46%	34%	↓
			あまり思わない	24%	20%	↓
			まったく思わない	2%	2%	→
	11	先を見通して、自分で計画が立てられる	とても思う	16%	30%	↑
			少し思う	42%	30%	↓
			あまり思わない	36%	34%	↓
			まったく思わない	6%	6%	→
12	小さな失敗をおそれない	とても思う	14%	24%	↑	
		少し思う	54%	39%	↓	
		あまり思わない	32%	35%	↑	
		まったく思わない	0%	2%	↑	
13	うまくいくようにいろいろな工夫をすることができる	とても思う	26%	40%	↑	
		少し思う	60%	42%	↓	
		あまり思わない	14%	18%	↑	
		まったく思わない	0%	0%	→	
14	新しいことに挑戦したい	とても思う	68%	78%	↑	
		少し思う	30%	18%	↓	
		あまり思わない	2%	4%	↑	
		まったく思わない	0%	0%	→	
15	だれとでも仲よくできる	とても思う	40%	46%	↑	
		少し思う	48%	40%	↓	
		あまり思わない	12%	14%	↑	
		まったく思わない	0%	0%	→	
16	その場にふさわしい行動ができる	とても思う	42%	46%	↑	
		少し思う	44%	48%	↑	
		あまり思わない	14%	6%	↓	
		まったく思わない	0%	0%	→	
17	自分勝手なわがままを言わない	とても思う	36%	42%	↑	
		少し思う	52%	50%	↓	
		あまり思わない	10%	8%	↓	
		まったく思わない	2%	0%	↓	
要素Ⅱ	18	いやがらずに、よく働く	とても思う	38%	32%	↓
			少し思う	46%	56%	↑
			あまり思わない	16%	12%	↓
			まったく思わない	0%	0%	→
	19	自分に割り当てられた仕事は、しっかりとやる	とても思う	76%	58%	↓
			少し思う	24%	42%	↑
あまり思わない			0%	0%	→	
まったく思わない			0%	0%	→	
20	自分がするべき役割をはっきりわかっている	とても思う	30%	44%	↑	
		少し思う	58%	44%	↓	
		あまり思わない	12%	12%	→	
		まったく思わない	0%	0%	→	

要素		質問番号	質問項目	回答	事前	事後	変化
要素Ⅲ	①異文化理解	21	交流国の文化(日常生活等)を理解している	とても思う	24%	34%	↑
				少し思う	50%	40%	↓
				あまり思わない	26%	26%	→
				まったく思わない	0%	0%	→
		22	交流国の歴史を理解している	とても思う	4%	14%	↑
				少し思う	42%	34%	↓
	23	初めての環境に自分からなじもうと努力する	あまり思わない	46%	50%	↑	
			まったく思わない	8%	2%	↓	
			とても思う	58%	54%	↓	
②日本人としてのアイデンティティ	24	日本の文化(日常生活等)を説明することができる	少し思う	38%	42%	↑	
			あまり思わない	4%	4%	→	
			まったく思わない	0%	0%	→	
			とても思う	24%	28%	↑	
	25	日本の歴史を説明することができる	少し思う	56%	52%	↓	
			あまり思わない	18%	20%	↑	
26	日本人としての良さを説明できる	まったく思わない	2%	0%	↓		
		とても思う	14%	18%	↑		
		少し思う	36%	42%	↑		
外向き志向	27	日本人として世界に貢献したい	あまり思わない	40%	38%	↓	
			まったく思わない	10%	2%	↓	
			とても思う	26%	39%	↑	
			少し思う	50%	45%	↓	
	28	外国の人との交流を通して自分の可能性を広げたい	あまり思わない	20%	16%	↓	
			まったく思わない	4%	0%	↓	
			とても思う	62%	68%	↑	
	29	交流した外国の人と将来も繋がりをもちたい	少し思う	32%	26%	↓	
			あまり思わない	4%	6%	↑	
まったく思わない			2%	0%	↓		
とても思う			78%	82%	↑		
少し思う			18%	16%	↓		
29	交流した外国の人と将来も繋がりをもちたい	あまり思わない	4%	2%	↓		
		まったく思わない	0%	0%	→		
		とても思う	78%	90%	↑		
29	交流した外国の人と将来も繋がりをもちたい	少し思う	18%	10%	↓		
		あまり思わない	4%	0%	↓		
		まったく思わない	0%	0%	→		

